

1

地域に防災知識を広めよう

町の防災組織の日頃からの備えとして、まず、「防災知識の広報・啓発」が重要となります。正しい知識や技術を地域に広めることで、事前の準備・対策、発災時の助け合いなどの活動が可能になります。



① 基礎的な訓練や研修をやってみる

- 事例 1** 防災イベントの開催 [神奈川県 子安通三丁目自治会]
- 事例 2** 基礎的な防災訓練 [市内における取組]
- 事例 3** トランシーバーによる情報受伝達訓練 [保土ケ谷区 くぬぎ台団地自治会]
- 事例 4** 移動放送設備による住民への情報伝達 [保土ケ谷区 くぬぎ台団地自治会]

② 訓練や研修に一工夫を加える

- 事例 5** 地域防災拠点での宿泊訓練 [港北区 箕輪町災害対策連絡会]
- 事例 6** 夜間訓練 [保土ケ谷区 くぬぎ台団地自治会]
- 事例 7** 不意打ち訓練 [磯子区 三井杉田台自治会]
- 事例 8** 「防災カルタ」の作成と一斉訪問 [磯子区 三井杉田台自治会]

③ なにかのついでに訓練や啓発をやってみる

- 事例 9** 一斉清掃後の防災訓練 [港北区 箕輪町災害対策連絡会]
- 事例 10** 炊き出し訓練を兼ねた餅つき大会 [西区 羽沢西部自治会]

① 基礎的な訓練や研修をやってみる

地域に防災の知識・技術を広めるために、イベントや訓練を実施しましょう。気軽に実施できることから、とにかく始めてみるのが大切です。参加率を高めるためには、楽しみながら参加できるもの、体験型のものなどを開催するとよいでしょう。

横浜市民防災センターの「災害体験ツアー」(P21 コラム参照)を地域の皆様と一緒に体験していただくこともお勧めです。

事例 1

防災イベントの開催

神奈川区 子安通三丁目自治会

子安通三丁目自治会では、毎年「防災フェア」を開催し、子どもたちを含め 600 人もの住民が参加し、楽しみながら防災について学んでいます。

- ・「スタンプラリー」
- ・「防災紙芝居」(保育園が実施)
- ・「子ども防災学習コーナー」(災害の写真や感震ブレーカー展示など)
- ・地元の住民による炊き出し(豚汁)や冷蔵庫の食材を使った災害食コーナー
- ・整骨院によるマッサージや入浴できない時用のホットタオル体験



ここがポイント

- ❗ スタンプラリーをすることにより、来場者が会場全体を回り、防災知識を学んでもらえるようにしている。
- ❗ 地元の消防署、病院、ケアプラザ、整骨院、保育園、障害者作業所、家庭防災員などを巻き込んで、様々なコーナーを設置している。
- ❗ 体験型のコーナーを数多くそろえ、子どもから大人まで、楽しみながら、実感を持って防災を学べるような工夫をしている(がれきの上を歩く、災害時のにおいの再現など)。



がれきの上を歩行する体験コーナー



町全体の防災意識を、底上げし、高めるために「防災フェア」を実施しています。ポイントは、ファミリー層が参加しやすい、楽しいものにすることです。

子どもは、記憶力が高いし、家庭で親に伝えてくれます。

防災は、若い世代を巻き込みながら取り組んでいくことが大切です。

子安通三丁目自治会 増田 智代さん

第10回 防災フェア



日時 平成27年5月17日(日) 10:00~13:00

会場 クレストシティタワーズ前広場
※雨天の場合は 2・3丁目合同会館で行います

体験・学習コーナー

- 神奈川消防署 起震車体験
- 古川病院 健康相談
- 新子安地域ケアプラザ
こども防災体験コーナー
- てごころ鍼灸整骨院・整体院 災害時の体調管理ストレッチ
- スタンパリー ● 家庭防災員によるホットタオル実習
- 三丁目防災学習コーナー・命のハンカチPR



さしんし
起震車がやってくる!

ステージ

- 10:15~ 太陽の子 新子安保育園
よい子の防災紙芝居
- 10:50~ 災害時の食セミナー
講師 鈴木 佳世子 氏
料理研究家
危機管理教育研究所推薦講師
- 12:00~ 神奈川消防署
AED・水消火器体験

試食・販売コーナー

- 炊き出し 豚汁
- 浦島共同作業所
クッキー他販売
- 横浜野菜直売
- パン・ケチャップ販売

主催 子安通三丁目自治会・自主防災会
協力 神奈川消防署浦島消防出張所 神奈川区役所 古川病院 新子安地域ケアプラザ
太陽の子 新子安保育園 てごころ鍼灸整骨院・整体院 浦島共同作業所

コラム
Column



減災パンフレット「わが家の地震対策」

ご家庭や地域で日頃から備えておくべきことをまとめたパンフレットです。18区それぞれのバージョンがあり、「震度・液状化マップ」「津波浸水マップ」「防災情報マップ」なども添付されています。

平成25年度に全戸配布し、その後も転入者に配布しています。日頃から手元において、家庭や地域での防災・減災対策にご活用ください。市ホームページからもダウンロードできます。

また、パンフレットの内容を10分の映像にまとめたDVDを作成し市ホームページで公開しているほか、区役所で貸し出しもしています。

横浜市 わが家の地震対策

事例 2

基礎的な防災訓練

市内における取組

いざというときに、適切な防災・減災活動を行うためには、防災訓練が欠かせません。ここでは、様々な団体が行っている訓練をご紹介します。

■ 救急訓練

(南区六ッ川地区連合自治会)



■ 要援護者救出訓練 (P56 事例 25 参照)

(鶴見区平安町町会)



■ 屋上避難訓練

(鶴見区江ヶ崎町内会)



■ バケツリレー

(鶴見区江ヶ崎町内会)



■ 消火栓放水訓練

(西区ヨコハマタワーリングスクエア自治会)



■ スタンドパイプ式消火器具訓練

(中区住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会)



■ ホワイトボードを利用した
安否確認訓練 (P85 事例 45 参照)
(戸塚区グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会)



■ タオルを使った安否確認訓練
(P53 事例 23 参照)
(中区住みよいまち・本郷町 3 丁目地区協議会)



■ 煙体験
(西区ヨコハマタワーリングスクエア自治会)



■ 簡易担架搬送訓練
(中区住みよいまち・本郷町 3 丁目地区協議会)



訓練のここがポイント

- ❶ 正しい知識、技術を習得するために、消防署・消防団の指導を受ける。
- ❷ 訓練終了後に課題を洗い出し、訓練内容を見直して必要な改善を行う。
- ❸ 地域内の事業所等の自衛消防組織、さらには近隣の自主防災組織とも共同して防災訓練を行う。
- ❹ 特定の災害だけでなく、地域の実状に即した訓練を実施する。
- ❺ 災害時要援護者にも配慮した訓練内容とする。
- ❻ 訓練にあたっては、事故防止に努める。
- ❼ 訓練の際に届け出が必要な場合は、関係する機関に忘れずに届け出る。



訓練は繰り返しやるのが重要です。体験したことは忘れません。訓練を 20 年も続けていると、新しいことをやってみることもできるようになります。訓練の様子を映像で残しておく、後で振り返りながら、さらに良い訓練へと結びつけることができます。

訓練と全く同じ事が被災時で起こるとは限りませんが、日頃から訓練しておく、万一異なる状況が発生しても、応用力がついていて対応できる可能性も高まります。

平安町町会 河西 英彦さん

初期消火訓練・救出救護訓練・避難訓練

〈消火訓練とは？〉

- ・消火器、スタンドパイプ式初期消火器具等を実際に使用して消火する訓練
- ・出火防止や初期消火は被害の拡大防止のために非常に重要



〈救出救護訓練とは？〉

- ・バル、油圧ジャッキ等の救出用資機材及びAED（自動体外式除細動器）などの救急救命用資機材の使用方法や応急手当の方法、救護所への搬送方法等について学ぶ訓練

〈避難訓練とは？〉

- ・あらかじめ定めた避難経路を通り、避難所などに避難する訓練
- ・参加者は避難経路や避難所の安全について確認するとともに、避難時の非常用持出品や安全な服装について留意するのがポイント
- ・地区内の避難状況の把握方法や、災害時要援護者の避難支援方法も確認しておくことが大切
- ・避難する際は、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めることも忘れずに行うことを周知する



事例 3

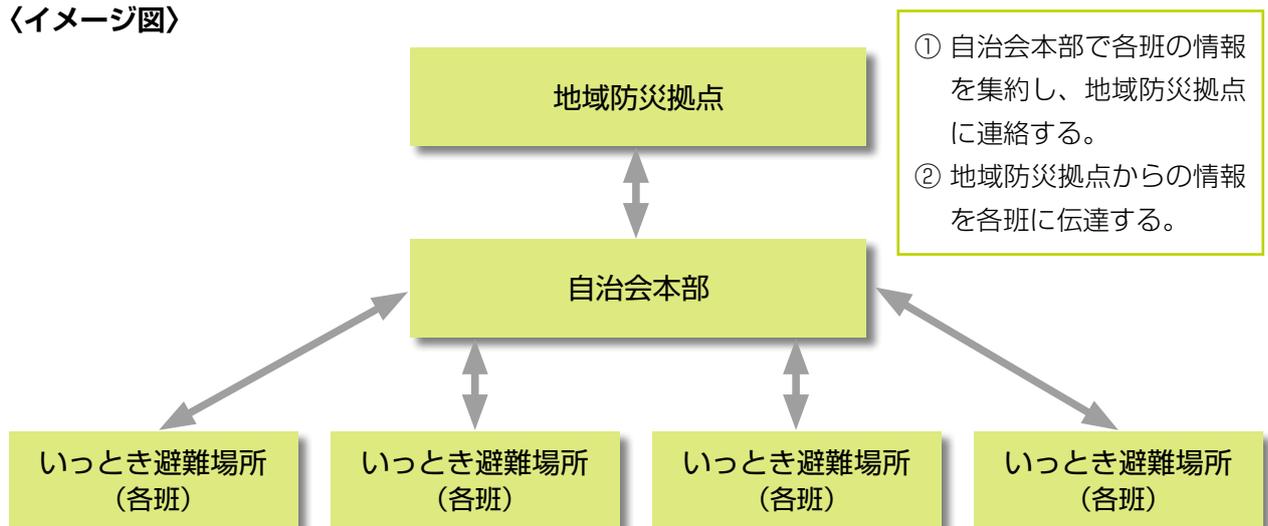
トランシーバーによる情報受伝達訓練

保土ケ谷区 くぬぎ台団地自治会

トランシーバーを使用して、「地域防災拠点」と「自治会本部」と「いっとき避難場所」との間で情報受伝達訓練を実施しています。

- ・ 住民は、班ごとに、4か所の「いっとき避難場所」に避難します。班長は、トランシーバーで被害状況、避難者数、避難路の確認などの情報を、自治会本部に伝達します。
- ・ 自治会本部は、各班からの情報を集約し、地域防災拠点に伝達します。（自治会長は地域防災拠点へ行ってしまったため、自治会本部は本部長代行として自治会副会長が自治会本部を指揮します。）
- ・ 地域防災拠点との訓練に向けて、各班では、事前に情報班を中心に情報受伝達訓練を実施します（各班で自主的に年間計画を立てています）。

〈イメージ図〉



ここがポイント

- ❗ トランシーバーを色々な行事や活動の時に使い、普段から使用方法に慣れておきます。
- ❗ コンクリートなど、電波をさえぎるものがあると、電波が届かない場合があるので、電波の通りやすい場所を確認するなど、訓練の仕方を工夫してより実効性の高いものにすることも大切です。

事例 4

移動放送設備による住民への情報伝達

保土ヶ谷区 くぬぎ台団地自治会

災害発生後、住民の皆さんに正確な情報を伝え、パニックを防止するため、くぬぎ台団地自治会は、「移動放送設備」を製作し、防災訓練やイベント等で活用しています。

「移動放送設備」は、台車の上に、発電機とスピーカー、アンプを載せ、台車を動かして、全方向に情報を発信するようにしています。

使用資機材

発電機、スピーカー、アンプ、マイク、台車



発災時に、住民にどのような情報を、どのように伝達するかを普段から考えておくことが重要です。情報が正確かつ迅速に伝われば、住民のパニック防止に役立ちます。

くぬぎ台団地自治会 鈴木 方規さん



移動放送設備

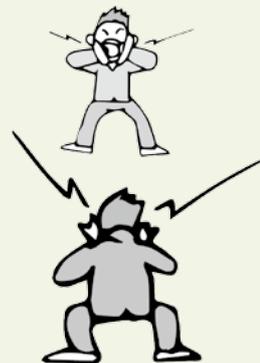
コラム

情報受伝達訓練とは

地域住民から収集した情報を整理し、自主防災組織本部、地域防災拠点に報告する訓練です。地域住民にも整理した情報を伝達します。その際、各世帯への情報伝達を効率よく行うため、あらかじめ情報伝達経路を定めておくことが大切です。

〈訓練のポイント〉

- 事実を確認し、時機に適した報告を行う。
- 地域防災拠点を通じて市や消防署・消防団との情報を共有する。
- 伝達は短く簡潔な言葉で行い、難しい言葉を避ける。
- 口頭だけでなくメモ程度の文書を渡しておく。
- 情報を正確に伝達するために、受信者に内容を復唱させる。
- 伝達内容には数字がからむことが多いため、数字の伝達には特に注意する。
- 「異常なし」も重要な情報である。
- 定期的な報告を行う。



「市民防災センター」を活用しよう - ①

横浜駅から徒歩約10分の場所にある横浜市民防災センターは、体験などを通じて、楽しみながらわかりやすく防災・減災について学ぶことができる、横浜市内唯一の施設です。

是非、地域の防災研修などで活用してください。また、ご家族や職場の皆さんと一緒に体験してみるのもお勧めです。災害への備えのヒントが見つかるかもしれません!!

〈災害体験ツアー〉

「災害シアター」「地震シミュレーター」「減災トレーニングルーム」など、施設の体験を通じて、地震、火災、風水害など各種の災害から身を守るための知識を身に付けることができます。

① 災害シアター

横浜の風景を使用した臨場感あふれるシアターで、災害を身近にイメージできます。



①災害シアター

② 地震シミュレーター

震度1～7までの揺れや、過去の地震、戸建住宅や超高層ビルなど様々なシチュエーションの揺れが体験できます。



②地震シミュレーター

③ 減災トレーニングルーム

映像や音響の演出で、地震、風水害、火災発生から避難までの流れを体験し、身を守る行動を学べます。



③減災トレーニングルーム -1



③減災トレーニングルーム -2



③減災トレーニングルーム -3

④ 火災シミュレーター

火災発生時の消火器を使った消火体験と、煙からの避難行動を体験できます。



④火災シミュレーター -1



④火災シミュレーター -2

「市民防災センター」を活用しよう - ②

⑤ 横浜ハザードマップ

災害が起きた場合に自分の町でどんなことが起こるのか、考えられる被害や地域の特性を、プロジェクションマッピングを使った地図で学ぶことができます。



⑤横浜ハザードマップ

⑥ 防災ライブラリ

市などの防災・減災に関する最新の取組や、災害に備えるためのヒントなどを学ぶことができます。



⑥防災ライブラリ

〈「共助」を学ぶためのプログラム〉

訓練室、研修室、隣接する屋外スペースを活用し、ニーズに応じた各種のプログラムも実施することができます。

(例) 防災マップづくり、災害図上訓練 (DIG)、初期消火器具取扱い訓練、災害時要援護者支援体験など



初期消火器具取扱い訓練



災害図上訓練 (DIG)



避難所運営訓練

市民防災センターへのアクセス

JR / 地下鉄 / 相鉄 / 東急 / 京急 /
みなとみらい線 横浜駅西口から
徒歩 10 分

住所：〒 221-0844

横浜市神奈川区沢渡 4-7

TEL : 045-312-0119

FAX : 045-312-0386



② 訓練や研修に一工夫を加える

訓練がマンネリ化すると、参加率も下がってしまいます。マンネリ化を脱するために一工夫すると、住民がいつも新鮮な気持ちで訓練に臨むことができます。

事例 5

地域防災拠点での宿泊訓練

港北区 箕輪町災害対策連絡会

地域防災拠点の訓練の後、実際に宿泊してもらい、避難生活を仮想体験してもらう訓練を実施しています。



ここがポイント

- ❗ 電気や水が出ないなど実際に近い状況で訓練を行う。
- ❗ 宿泊する方のスペースを割り振れるように事前に区割りを決めておく。
- ❗ 実際に宿泊することで、「避難生活はどのくらい寒いのか、暑いのか」「避難生活で何が必要となるか」「夜の騒音」「プライバシー問題」などを実感することができる。
- ❗ 地域防災拠点の運営委員も被災者であることを伝え、参加者にただ宿泊するだけでなく、避難所運営を手伝ってもらう旨をアピールする。



宿泊訓練を実施することにより、地域防災拠点における問題や課題などを浮き彫りにすることができます。

訓練は失敗してもいいのです。洗い出された問題や課題について、次の訓練に生かし、少しずつ解消していきましょう。

箕輪町災害対策連絡会 小泉 義行さん



地域住民に、地域防災拠点は「倒壊や火災などにより生活ができなくなった場合に、一時的に避難生活を送る場所」であり、家が無事な場合は、避難の必要がないことを周知・徹底することが大切です。避難訓練をする一方で、在宅避難ができるよう、家の耐震化、家具の転倒防止、水・食料・トイレパックの備蓄など日々できることから備えるよう地域住民に啓発をすることも大切です。

横浜プランナーズネットワーク 山路 清貴さん

事例 6

夜間訓練

保土ヶ谷区 くぬぎ台団地自治会

災害はいつ起きるか分からないので、夜間の発災を想定し、昼間と同じ校庭での訓練、体育館での訓練などを、夜間に実施しています。

- ・ 昼間実施している訓練を全く同様に夜間に実施する。
- ・ 実施時間は、夜 7 時頃から 9 時頃に設定。

安全対策

- ・ 懐中電灯ではなく周りを明るくできるランタンをかなりの数集める。
- ・ 参加者には、運動靴を履くこと、軍手をつけること、ヘルメットをかぶることを徹底する。
- ・ 一人でもけが人が出たら失敗とし訓練は中止する。



夜間の救急訓練



夜間の起震車訓練



私は、防災訓練は自分たちの生命財産にかかわることだから、全所帯の3割は参加しなくてはだめだと思っています。

そこで、いつも気にかけているのが、訓練を実施する時に、同じことの繰り返し、マンネリ化をいかに防ぐかということです。マンネリ化すると、必ず人が離れていきます。だから、主催者側が、基本は押さえながらも新たな視点を導入しながら、毎年訓練を考える必要があります。「やっぱり参加して勉強になったな」と思う人が何人か出てくるように心がけています。

くぬぎ台団地自治会 鈴木 方規さん

防災シミュレーションゲーム

防災シミュレーションゲームは、災害が起きたときの状況をイメージすることで、「災害対策に何が足りないか」への気付きとなり、「今後どんな訓練を行えば良いのか」という行動につながる重要な訓練です。

ゲーム感覚で楽しみながら学んでいきましょう。

名称	概要	必要なもの	参考
ハグ HUG (避難所運営ゲーム) (Hinanjo (避難所) Unei (運営) Game (ゲーム))	避難所運営を任せられたという想定の下で、次々にやってくる避難者の状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切な対応を学ぶゲーム	・避難所の見取り図 ・保有資機材 ・データカード など	静岡県地震防災センター http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/about.html
ディグ DIG (Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム))	参加者が地図を囲んで、自分たちのまちの自然のつくりや防災関連施設、危険箇所等の情報を書き込み、災害時の対応策について議論していくゲーム	・街区地図 ・災害テーマの設定(地震、風水害など) ・マジックペン、ふせん など	静岡県地震防災センター http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/dig/
クロスロードゲーム	カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が議論するゲーム	・ゲームカード	内閣府 http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/torikumi/kth19005.html



DIG



クロスロードゲーム

事例 7

不意打ち訓練

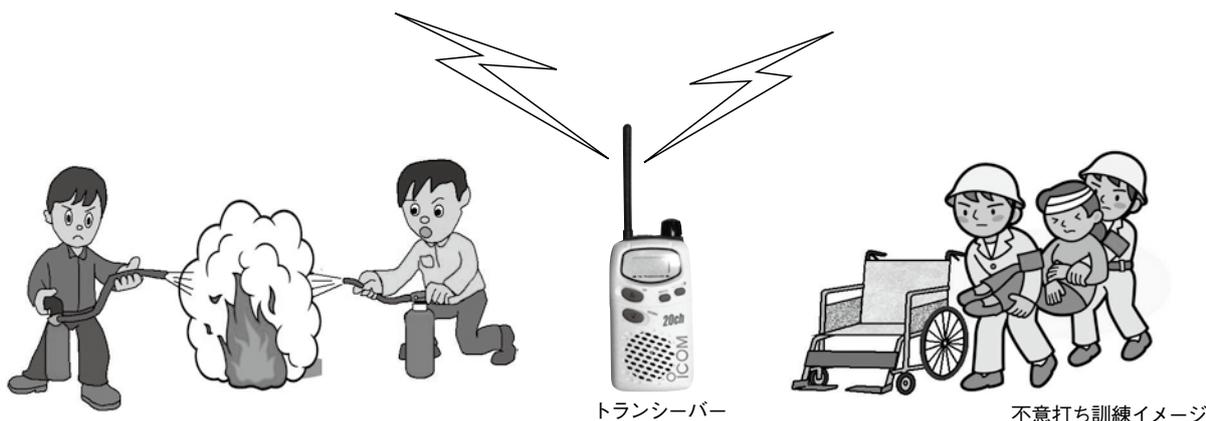
磯子区 三井杉田台自治会

三井杉田台自治会では、毎年1回行っている安否確認訓練（p55 事例 24 参照）の際に、「不意打ち訓練」を行っています。

当日は、自宅付近で待機している役員・班長全員に配備しているトランシーバーを通じて、何人かに予告なしの指示を出します。安否確認訓練の最中に指示が出るので、内容によってどちらを優先するかは各自が判断して行動します。

指示の例

- ・ ○○さんの家で火が出たので、消火班の A さん、B さん、C さんは、消火器を各2本持って現場に行ってください。
- ・ △△さんが怪我をして歩けません。救出救護班の D さん、E さん、F さんは、備蓄庫の車いすを使って、△△さんを自治会館へ連れてきてください。



ここがポイント

- ❗ 誰にどんな内容の指示を出すかは伏せているので、災害時を想定した実践的な訓練となっています。
- ❗ トランシーバーの使用訓練にもなっています。



防災訓練には、「安否確認訓練」「避難誘導訓練」「炊出し訓練」「消火訓練」など、様々な訓練が考えられます。これらの中で何が本当に重要か考えてみましょう。

3日間は食事をしなくても命まで失いませんが、発災直後に家から脱出できず、火や水が迫れば命を失います。

災害時に役員が不在であっても、取り返しのつかない重大事への対応を多くの人が担うことができるよう、実践的で効果的な防災訓練を行いたいものです。

三井杉田台自治会 片山 晋さん

事例 8

「防災カルタ」の作成と一斉訪問

磯子区 三井杉田台自治会

三井杉田台自治会では、毎年1回行う安否確認訓練（p55 事例 24 参照）の際に、近隣の親交の薄い家を訪問し、防災カルタを交換して顔の見える関係づくりを行っています。

- ・ 防災カルタはあらかじめ各家庭に5枚ずつ配っておきます。
- ・ 防災カルタには防災豆知識が書いてあります（全部で約80種類）。
- ・ 訓練では、全員が5軒を訪問して安否確認を行います。
- ・ 訪問の際は、防災カルタをお互いに見せ合い、交換します。



ここがポイント

- ❗ 訪問の際にはなるべく、普段あまり口をきいたことがない家を訪問します。
- ❗ 防災カルタは、訪問時の会話のきっかけになり、防災知識を普及する効果もあります。



近隣訪問による絆づくりが大切



防災は絆づくりが大切です。近隣で助け合うためには、〈1〉お互いに無事だろうか心配しあう関係、〈2〉災害が発生した時にいち早く安否を確認する仕組み、〈3〉救助ができる体制が必要です。

〈2〉〈3〉について自治会・町内会で仕組みをつくることはできますが、それに魂を入れて真に機能させるのは、〈1〉の心配しあう関係だと思えます。

近隣訪問を毎年繰り返すことで、近隣の顔が見えて絆ができてきます。それが生きた共助へとつながるメリットがあるのです。

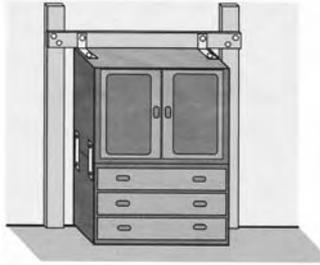
三井杉田台自治会 片山 晋さん

防災カルタの内容例

防災家族談議



防災家族会議の開催は大切です。命を落とさないこと、家族との連絡方法、初期消火、などを優先して検討し対策しましょう。食料やトイレは命が助かった後の問題です。



地震に備えて高級家具を固定するのは抵抗がありますが、家具より人命が大切です。ましてや大地震では非固定の高級家具も無残に壊れますが、固定すると助かります。



大災害時にはデマやパニックがつきものです。平常心の日頃に大災害をイメージし、適切な対処法を考えておくことは、デマに惑わされず、パニック回避に有効であり、命拾いにつながります。



災害時の全ての行動は情報から始まります。しかし災害直後の最も必要な時に、電話・ケータイは通じません。そんなときトランシーバは極めて強力なツールになります。



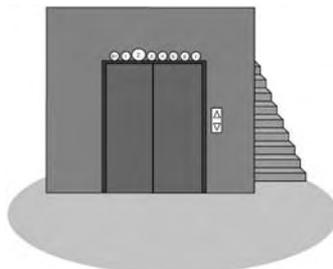
大災害時の被害想定とイメージなくして、その備えや対応はできません。最悪を想定してイメージし、そうならない様に備えましょう。想定以内の事態なら落ち着いて対応できます。



3.11では首都圏で多くの帰宅困難者がありました。電車が停まっただけで、家屋の倒壊も火災も無ければ急いで帰宅する必要はないでしょう。しかし、火災が多発すれば早く逃げなくては命を失います。



防災・減災の仕組みや機材を準備しても、それだけでは絵に描いた餅になりかねません。地域の人々がお互いに心配し合える関係があって、それらが有効に機能します。



デパートなど高層ビルでは物が置かれていないエレベーター前のホールなどが比較的安全な場所です。

もしもの時こそ女性の視点を大切に

災害の規模が大きくなればなるほど、避難所での被災生活が長くなります。過去の災害時には、育児、介護、炊き出しなどの家庭的責任や役割が女性に集中したり、女性、子どもを狙った犯罪が増加したり、と様々な課題が明らかになっています。

これらの課題を解決するためには、日ごろからの防災活動や地域防災拠点の運営などには、性別によらず役割を分担すること、女性の視点を取り入れること、男女のニーズの違いに配慮することなどが重要となります。とりわけ地域の人たちや暮らしをよく知っていて、信頼されている女性の皆さんの意見は貴重なものです。ぜひ、積極的に防災活動に参加し、その力を発揮していただきたいと思います。

〈こんな取組が始まっています。〉

地域防災拠点の運営に、授乳室や更衣室、トイレの位置など女性の視点も取り入れた事例を紹介します。

■オアシスルームの設置訓練

(青葉区 あぞみの第二小学校地域防災拠点運営委員会)

避難してきた女性や子どもが安心して心身の落ち着きを取り戻せるようオアシスルームを設置する訓練をしました。

- ・学校の協力で、メインの避難所となる体育館ではなく校舎内の教室を開設場所に。
- ・教室内の区画割を検討（授乳コーナー、下着などを干す場所、女性用の衛生用品の配布窓口など）
- ・運営ルールの検討（就寝・起床時間、防犯対策、乳児連れのパパはどうする？など）



■女性の視点講演会（南区六ツ川地区連合自治会）

男性に女性のように着替えてもらうなど女性の大変さを体験して理解してもらうような講習を実施し、女性の視点の大切さを学んでもらいました。

〈YOKOHAMA わたしの防災カノート配布中！& 出前学習会に伺います〉

横浜市男女共同参画センターでは「わたしの防災カノート」を使ったワークショップの出前学習会を行っています。自治会や町内会の防災研修や、PTA・子育て支援施設での学習会など、性別、年代を超えたつながりづくり、地域の安全網づくりには是非お役立てください。

お問合せ：(公財) 横浜市男女共同参画推進協会事業企画課

電話 045-862-5141



③ なにかのついでに訓練や啓発をやってみる

防災だけの目的で、訓練やイベントを開催するのは労力がかかります。なにか決まった催事のついでならば、もっと気軽に、回数も多く、訓練などを実施することができます。

事例 9

一斉清掃後の防災訓練

港北区 箕輪町災害対策連絡会

地域で一斉清掃などを実施した後に、**ついでに**防災訓練を実施しています。



清掃後に、消火器の使用訓練などを実施



ここがポイント

- ❗ 人が集まる機会を利用して、訓練や啓発を、短時間でも頻繁に実施することで、負担感なく住民に浸透させることができます。
- ❗ 訓練を頻繁に実施することにより、地域のコミュニティが活発化し、発災時の地域で助け合う下地、顔の見える関係づくりができます。
- ❗ 訓練の内容については、参加者が飽きないように毎回変えるなど工夫します。



いっつき避難場所に集まる住民が「今度、何かあったら頼むね」と言える雰囲気づくりをすれば、要援護者支援ができる関係ができるのではと考えています。

箕輪町災害対策連絡会 斉藤 忠一さん



鶴見区のある町内会では、参加者が少なかった防犯パトロールを“健康ウォーク”の名のもとに、わざわざ急な階段を上り下りしたり景色の良い場所まで足を伸ばしたりしたところ、急に参加者が増えたそうです。今では一日おきに実施しているとのこと。

横浜プランナーズネットワーク 山路 清貴さん

事例 10

炊き出し訓練を兼ねた餅つき大会

西区 羽沢西部自治会

この地域は、消防車も入れないような狭い道しか通っていない地区で、人が集まれる広場もありませんでした。そこで、地域の中にある神社の駐車場を自主整備して、広場として活用し、様々なイベントを行っています。その中で、羽沢西部自治会では「炊き出し訓練を兼ねた餅つき大会」を実施しています。秋には高齢者の会食会を実施し、通りすがりの方からは参加費をいただいてサンマをふるまったりと、地域の絆を強める場として機能しています。



舗装を自主整備した羽沢稲荷神社



炊き出し訓練を兼ねた餅つき大会



サンマを焼く会

⇒次のページに参考資料あり



ここがポイント

- ❶ 地域の特性を考え、必要なことを地域で自主的に取り組むことが大切です。
- ❷ 人が集まる機会を利用して、訓練や啓発を短時間でも頻繁に実施することで、負担感なく住民に浸透させることができます。
- ❸ イベントなどを頻繁にすることにより、地域のコミュニティが活発化し、発災時の地域で助け合う下地、顔の見える関係づくりができます。



地域の特性によっては、行政の手が届きにくいところもあります。それを自主的に解決に取り組むことも大切です。また、集まる場所がある場合は、そこでイベントなどを行うことにより地域の絆は深まり、いざという時の助け合いに繋がります。

横浜プランナーズネットワーク 山路 清貴さん

羽沢西部食事会 秋の特別メニュー

焼きたてサンマの会

青空のもと皆でサンマを食べましょう!

平成26年10月9日(木)



羽沢稻荷境内

参加費*350円

食券販売*11時20分

開店時間*11時30分

12時30分までに会場にお越し下さい

メニュー

サンマ1本

おにぎり

豚汁

くだもの

漬け物

楽しいおしゃべ

メニューが変わる場合があります



小雨決行
荒天中止

どなたでも参加できます。お待ちしております。

平成26年9月 羽沢西部自治会食事会

地域で広めてもらいたい減災対策

①家具の固定や配置の工夫で自分と家族の命を守ろう

近年の大地震では、転倒・移動した家具類が負傷や逃げ遅れの原因の一つとなっています。横浜市の被害想定（24年10月）では、家具類の転倒等による死者が91人、負傷・重傷者が1,931人発生するとしています。自分と家族の命を守る「自助」の取組の一つとして、家具を固定する、また、配置を工夫することで、家の中を安全にしましょう。

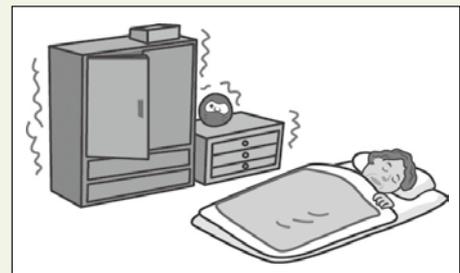
○背の高い家具は、固定器具を使って固定しましょう



左：L字金具
右：突っ張り棒

○家具の配置を工夫しよう

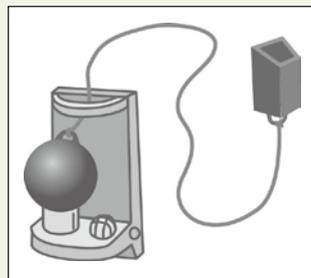
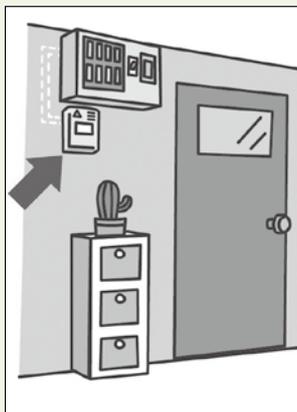
就寝中に家具が倒れてくると、負傷・死亡する可能性が高くなります。また、廊下や出入口付近の家具が倒れると、屋外に避難することが困難になります。万が一、倒れても安全が確保できる配置にしましょう。



②感震ブレーカーの設置で地震火災の発生を防ごう

東日本大震災や阪神・淡路大震災で発生した火災（出火原因が確認されたもの）の6割以上が電気に起因する火災と言われています。横浜市の被害想定では火災による死者が1,548人発生し、全死者数（3,260人）の約47%を占めています。

「感震ブレーカー」は、設定値以上の揺れを感知して、ブレーカーやコンセント等の電気を自動的に止める器具です。大地震時の電気火災を防ぐには、揺れを感知して自動的に電気を止める「感震ブレーカー」の設置が有効です。



左：分電盤タイプ（増設型）、
上：簡易タイプ（おもり玉式）、
右：簡易タイプ（バネ式）

